

昭和60年

工業統計調査結果速報

工業都市富士市のすがた

製造品出荷額等一兆四千二百四十五億円

昭和六十年十二月三十一日現在で実施した「昭和六十年工業統計調査」の富士市分の概要がまとまりました。

今回の調査は、全事業所を対象（昨年は、四人以上の事業所）とした調査です。工業都市としてのバロメーターになる製造品出荷額等は、一兆四千二百四十五億円で、昨年に引き続き、浜松市に次いで県下第二位でした。なお、調査結果の詳細については、後日「富士市工業統計調査結果書」として公表する予定です。

県下第二位の出荷額

市内の製造事業所数は、千五百七十八事業所、従業者数は、四万七千三百三十四人、製造品出荷額等は、一兆四千二百四十五億二千四

十一万円（四人以上の事業所、一兆四千九百九十四億七千六百五十四万円）でした。

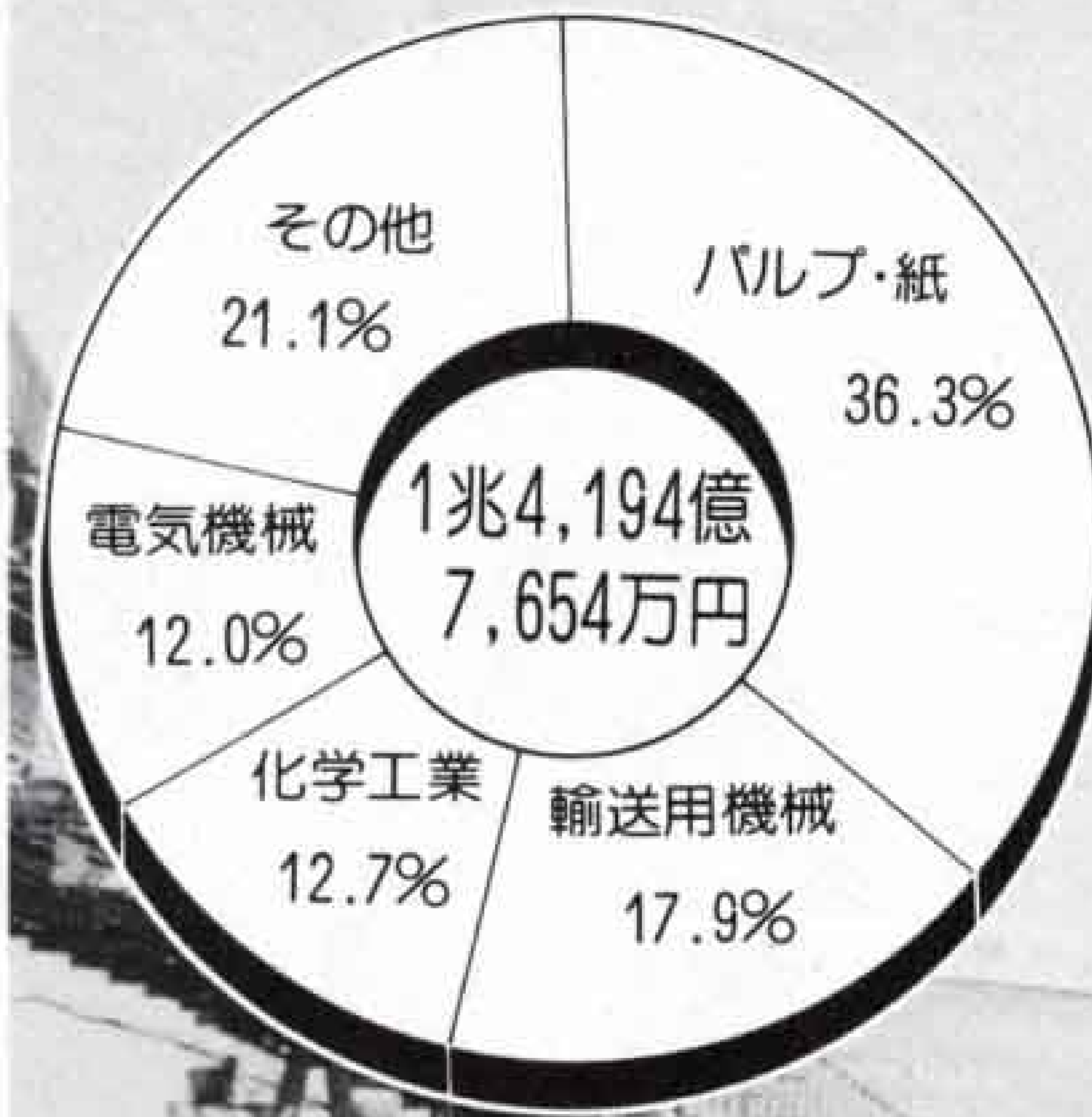
これを前年と比較すると、事業所数で四十六事業所の減少、従業者数は四百九十九人の増加。また、製造品出荷額等は、四百九億六千

昭和60年 富士市の産業別、事業所数、 従業者数、製造品出荷額等

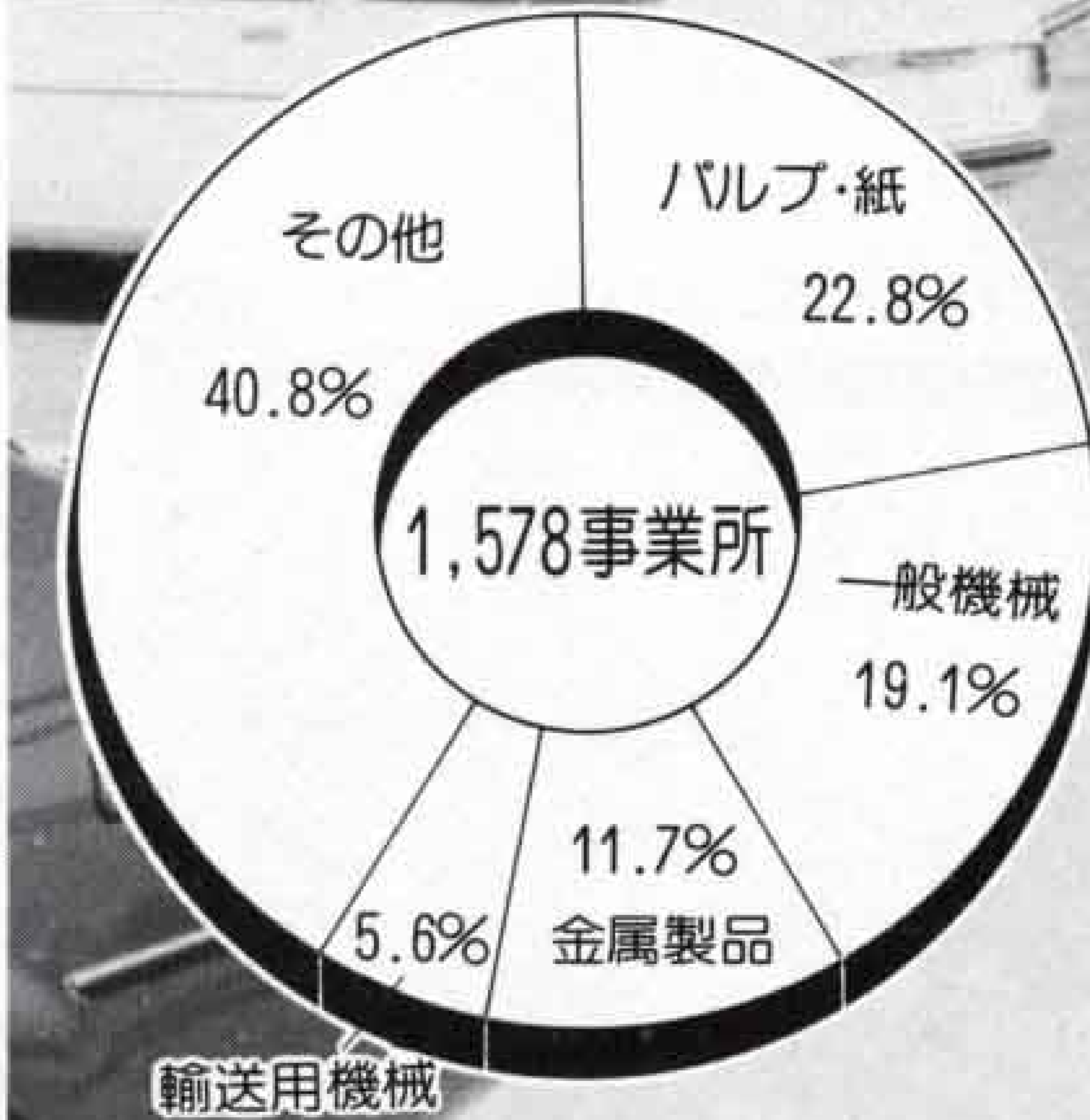
昭和60年12月31日現在

産業中分類 (・重化学工業)	事業所数		従業者数(人)		製造品出荷額等(万円) (4人以上の事業所)	
	60年	構成比(%)	60年	構成比(%)	60年	構成比(%)
総数	1,578	100.0	47,134	100.0	141,947,654	100.0
軽工業計	857	54.3	21,401	45.4	66,379,319	46.8
・重化学工業計	721	45.7	25,733	54.6	75,568,335	53.2
食料品	81	5.1	1,582	3.4	5,750,544	4.0
飲料・飼料	63	4.0	424	0.9	1,950,023	1.4
繊維工業	30	1.9	464	1.0	364,215	0.3
衣服	9	0.6	91	0.2	83,340	0.1
木材・木製品	65	4.1	493	1.0	545,087	0.4
家具・装備品	51	3.2	210	0.4	135,972	0.1
パルプ・紙	360	22.8	14,660	31.1	51,599,510	36.3
出版・印刷	72	4.6	678	1.4	702,416	0.5
・化学工業	18	1.1	3,716	7.9	18,082,078	12.7
・石油・石炭	4	0.3	35	0.1	181,584	0.1
プラスチック	91	5.8	2,271	4.8	4,173,756	2.9
ゴム製品	2	0.1	X	X	X	X
窯業・土石	27	1.7	399	0.9	995,155	0.7
・鉄鋼業	23	1.5	533	1.1	3,848,652	2.7
・非鉄金属	15	0.9	97	0.2	175,706	0.1
・金属製品	184	11.7	2,480	5.3	4,111,412	2.9
・一般機械	302	19.1	4,404	9.3	6,611,161	4.7
・電気機械	78	4.9	5,127	10.9	16,967,634	12.0
・輸送用機械	88	5.6	9,048	19.2	25,482,280	17.9
・精密機械	9	0.6	293	0.6	107,828	0.1
その他	6	0.4	X	X	X	X
秘匿欄	—	—	129	0.3	79,301	0.1

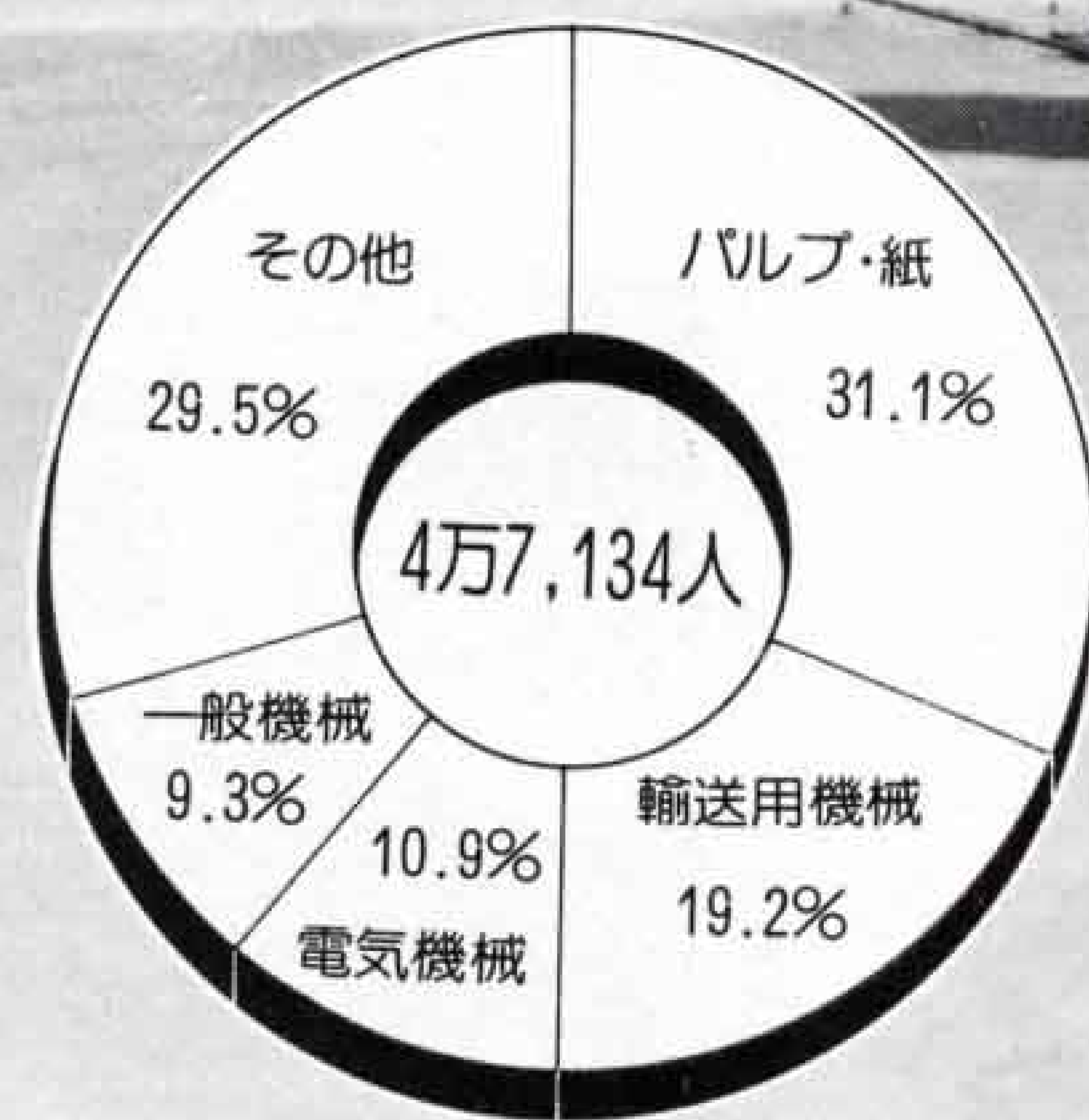
製造品出荷額等 (4人以上の事業所)



産業別事業所数



従業者数



百七十三万円(四人以上の事業所)増加しました。このうち、重化学工業の製造業に占める割合は、事業所数四五・七%、従業者数五四・六%、製造品出荷額等五三・二%と、重化学工業の占める割合が大きくなっています。

また、県下市町村別の製造品出荷額等を見ると、浜松市の一兆七千七百七十八億円が第一位で、県下の総製造品出荷額等の一三・六%を占め、次いで富士市の一兆四千二百四十五億円一・三%、清水市一兆六十九億円八・〇%、静岡市八千五百七十億円六・八%、磐田市八千億円六・三%の順で、上位五市で県全体の四六%を占めました。

産業別出荷額等 トップはパルプ・紙

従業者四人以上の事業所の製造品出荷額等は、一兆四千九百九十四億七千六百五十四万円で前年より四百九億六千七百三十三万円増加しました。産業別のトップは、地場産業であるパルプ・紙の五千五百五十九億九千五百十万円、次いで輸送用機械二千五百四十八億二千二百八十万円、化学工業千八百八億二千七百八十万円、電気機械千六百九十六億七千六百三十四万円の順でした。

前年と比べ増加額の多かった産業のベスト3は、電気機械が二百四十七億五千八百九十九万円、化学工業が九十億二千七百八十八万円、鉄鋼業が五十一億三千二百二十七万

円でした。一方、減少した産業は輸送用機械の五十三億六千四百四十四万円、パルプ・紙の三十七億六千三百七十三万円、精密機械一億九千四百四十二万円の順でした。

事業所数は、千五百七十八事業所で前年より四十六事業所減りました。産業別に見ると、パルプ・紙が三百六十事業所で最も多く、以下一般機械三百二、金属製品百八十四、輸送用機械八十八事業所の順でした。

前年と比べ増加した事業所は、一般機械八、輸送用機械八、電気機械四事業所などでした。

一方、減少した事業所は、金属製品十四、非鉄金属十三、鉄鋼業十、パルプ・紙八事業所などでした。

従業者数は増

従業者数は、四万七千七百三十四人で前年より四百九十九人増加しました。産業別では、パルプ・紙が一万四千六百六十六人で最も多く、次いで輸送用機械九千四百八十八人、電気機械五千二百二十七人、一般機械四千四百四十四人の順でした。

前年に比べ増加した産業は、輸送用機械四百九十九人、一般機械百三十二人、木材・木製品四十三人でした。一方、減少した産業は、電気機械の百三十二人が最も多く、以下化学工業七十五人、非鉄金属六十三人などでした。